

名前:

インターネットが普及したおかげで、ニュースや新しい報道・知識などを取る方は本にかぎらなくなりました。そして、作者であれ読者であれインターネットは使いやすい利点がある。それは作者達が即席な新聞を書いて発表できるし、伝いたい場所がいくら遠くてもかまわない。一方読者にとって、インターネットでその時間・空間の便宜を恵まれた上で、知りたいものが一切コンピューターだけで勝ち取られるので、本を買わなくても大丈夫。お金がかかることがないのはまた利点一つだ。さらに、本の重さと考えると、インターネットは確かに便利にきわめたい。というのは、今携帯電話でさえ、ネットをサーフできるの^{surf}で、厚い本を持っているよりポケット^{pocket}から携帯を出して調べるほうが楽だ。

そうしたら、インターネットは本の終結者みたいな存在になるようだ。「ネットができて新聞や雑誌はもういらない」という声もときどき聞こえる。でも私にとって本の存在

は必要、永遠に思っている。

本は手で触れる実際の存在であり、文字が紙の上にかかれたから、インターネットでのと比べると真実感ももつとある。なお、ネットでハイクから攻撃されて改竄のおそれもないので、作者でも読者でも安心できる。

私的に、紙で読むことはパソコンで読むよりずいぶん気持ちがいいと思う。紙をめぐると成就感もできた。つきのページは何か私に待っているかなというわくわくな気持ちが満喫するから。そして、ベットに入る時、なにが読みたいなら、パソコンではなくできっと本を抱いてベットに入るでしょう。

そして本の中に自分の気持ちも、直接に本のそば^{そば}にかくことができる、数年後にこの本を出して見るとき、と当時のおもい出を味わえるでしょう。

このような理由で、私にとって、これからも、新聞や雑誌は必要だと思う。